

#### 42. 骨盤の分娩経過に及ぼす影響（特に児頭大横径と骨盤の傾斜並びに仙骨因子について）

（群馬大）

○佐藤 郁夫, 村上 優子, 松本 清一

1) 研究目的：私共は昭和44年の本大会において「超音波による児頭大横径の測定と大横径の分娩経過に及ぼす影響」と題して発表し引続き症例を重ねてきたが、今回はさらに分娩に大きく影響すると思われる妊婦の姿勢とそれに伴う骨盤の傾斜について検討を加え、骨盤の傾斜が分娩の経過に及ぼす影響について調べた。

2) 研究方法：対象は180例の初産と前回帝王切開で骨盤の傾斜は立位の側面レ線写真で恥骨結合の上端から後ろへ水平に引いた線と同じ場所から腰仙骨岬へ引いた斜線とのなす角度で表わした。さらに超音波による大横径、レ線写真による最小前後径および産科真結合線と同じ場所の恥骨後面から第5仙骨下端に引いた斜線とのなす角を併せ測定した。

3) 研究成績：1) 分娩時間は大横径と骨盤の最小前後径との差で大きく影響を受ける。2) 大横径と最小前後径との差が3cm以下の場合、分娩時間と骨盤の傾斜との間に相関をみた。すなわち傾斜が約45°の時分娩時間は平均10.5時間、約50°のとき13.5時間、約55°の時21.5時間、約60°の時28.5時間であった。3) 大横径と最小前後径との差が3cm以上の場合、分娩時間と傾斜の間には一定の関係はなく、分娩時間は傾斜が55°～65°でも13時間以内で平均8.5時間であった。4) さらに結果1)の分娩第I期をFriedmanの分類にしたがいlatent phaseとactive phaseに分け、骨盤の角度との関連についても検討を加えた。

#### 43. 内部環境の恒常性に及ぼす分娩の影響

（市立札幌病院）○土門 洋哉, 鷺塚 紀夫  
石川 睦男, 岡野 敬多

1) 研究目的：分娩という多大の労作（負荷）が産婦の内部環境の恒常性を如何に乱すか、また分娩第I期にDiazepamを投与することによって、その恒常性に良い影響を及ぼすのかを検討するために本実験を行なった。

2) 研究方法：初産婦を対象としplacebo注射群13人、Diazepam群13人に注射前・注射後2時間、分娩後30分、産褥3日目にフリッカーテスト、算点法および寒冷昇圧試験動揺値を測定した。またCMIテストも行なった。

3) 研究成績：大脳皮質活動水準を示すとされるフリッカー値は両群とも注射前より注射後各時点で高く、分

娩後30分で最高値を示し、placebo群よりDiazepam群の方が各時点で値が高い傾向であった。注意集中力の指標となる算点法では両群とも注射後その所要時間は延長し産褥時に回復に向った。その延長はplacebo群に大きい傾向であった。視床下部における自律神経中枢の均衡状態を示す寒冷昇圧試験動揺値では注射後の各時点においてplacebo群はDiazepam群より有意にそれぞれ大きい値を示した。またDiazepam群の動揺値は注射後安定化するのに対しplacebo群では分娩中明らかな動揺の増大を認めた。注射が和痛に対し有効であった群は無効群に比し、分娩後30分の動揺値は有意に小さかった。なおCMIより神経症的被験者は含まれていなかった。

以上より、分娩は肉体的、精神的ストレスとなり、生体のhomeostatic defenseに多大の影響を及ぼし、Diazepamはこれらストレスの緩解に役立つものと思われた。

#### 44. 分娩誘発例の子宮内圧一胎児心拍反射の分析

（東京大）○穂垣 正暢, 坂元 正一  
（愛育会病院）我妻 堯, 木下 勝之

1) 研究目的：子宮収縮が胎児に及ぼす影響をみるために、2種の薬剤を用いて羊水内圧のパターンを変化させ、胎児心拍に及ぼす影響を定量的に分析しようとした。

2) 研究方法：オキシトシンおよびプロスタグランジンF<sub>2a</sub> (PGF)の連続静注による分娩誘発40例につき、子宮内圧一胎児心拍数を連続的に記録しながらinfusion pumpによる薬剤注入量を段階的に変化させた。得られた内圧曲線とその微分曲線上から基本的な8個のパラメーターを抽出し、胎児心拍変動との対応関係を定量的に分析した。

3) 研究成績：薬剤投与量の変動が内圧パターンに反映される程度は2種の薬剤によつて差があり、PGFによる収縮は比較的ゆるやかな圧の上昇と下降を示すパターンで、内圧上昇の最大値はオキシトシンに較べて低い傾向を示す。胎児徐脈の出現は注入量増加後2回目の収縮に最も高頻度でみられるのがオキシトシンであるが、PGFではそれよりも遅れて出現する。徐脈出現に先行して、間歇時静水圧の上昇、収縮頻度の増加、微分曲線上の上昇期、下降期の延長の間に一定の対応関係が認められ、これはオキシトシンでより著明であった。PGFについては一部の症例で収縮に対応する一過性の頻脈の出現が認められる。異常な子宮収縮パターンが繰り返されることによつて胎児末梢血中に影響が現れることから